

【大竹市】 校務 DX 計画

令和5年3月文部科学省で、GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議の提言（GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高速化を目指して～）をとりまとめ、次世代の校務DXの方向性が示されたところである。

大竹市の教育現場における DX 化を推進することにより、教職員の働き方改革を図り、そして質の高い教育活動の実現を目指していく。

1. 校務の ICT 化の推進

令和6年度に校務系ネットワークをオンプレミスのシステム環境からクラウドに移行し、教育委員会と学校間のデータのやり取りや情報共有のデジタル化の推進及び教職員の業務効率化を図っている。今後、クラウドツールを有効的に活用することで、FAX や押印等の見直しとともに、会議資料等のペーパーレス化を推進していく。

また、教職員の ICT 活用能力向上と積極的な授業への活用を促進するため、継続して「ICT 支援員」を配置する。

2. 校務系及び学習系ネットワークの統合

現在は校務系と学習系のネットワークが分離した状態であり、教職員は校務系と学習系でそれぞれ端末を使い分ける必要がある。ネットワークが分離していることで、一定のセキュリティは担保できているが、校務系と学習系のデータ連係が不十分であることなどが課題となっている。

今後のシステムやネットワークの更新においては、1 台の教職員端末で2つのネットワーク（校務系と学習系）に切り替えて利用できるようゼロトラストセキュリティの考え方に基づき、ネットワーク統合について検討を進めていく。

3. 次世代校務支援システムの導入

教職員の働き方改革と業務の効率化を図るため、教務系（成績処理、出欠管理、時数管理等）、保健系（健康診断票、保健室来室管理等）、学籍系（指導要録等）、学校事務系などの機能を有したクラウド型の統合型校務支援システムの導入の検討を行う。ま

た、汎用のクラウドツールと連携を図り、学校から保護者への連絡事項やアンケート、保護者からの欠席連絡等をクラウドサービスを用いて行うことで教職員と保護者双方の負担軽減となるような環境整備を進めていく。